

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人権尊重の精神を基調とし、心身ともに健康で知性と感性に富み、社会性や人間性豊かな生徒の育成を目指し、次の目標を設定する。

○思いやりの心を持てる人 ○自ら学び、考え行動できる人 ○心も体もたくましい人

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ・ 全教育活動を通して、人権教育プログラムを基に人権教育を推進する。特に、生命の尊重を重点に置き、いじめや暴力を許さないこと等の指導を通し豊かな人間性や社会性をもつ生徒を育成する。
- ・ 道徳教育を通して、人間としての生き方の自覚を促す指導を充実させ、社会の変化に主体的に対応できる人間性や豊かな心をはぐくみ、他を思いやれる心の醸成等、生徒の道徳性を育成する。
- ・ 特別支援教育を通して、生徒一人一人の心に寄り添える教育相談を推進し、Q-U等の活用からソーシャルスキルトレーニングやカウンセリング活動を充実させ、生徒の人間関係構築力を育成する。
- ・ 小中一貫教育を通して、9年間の連続性や継続性のある指導法の改善に努め、授業を工夫するとともに、カリキュラムの実践・検証をしながら生徒一人一人の学力の定着させる。
- ・ 各教科を通して、アクティブラーニング「学び合い活動」および「指導法の工夫」の充実を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力等をバランスよく育成する。
- ・ 各教科等の指導・評価計画を明確にし、生徒一人一人の学習状況を把握し、指導目標と評価の観点を一致させるとともに、資質・能力を多角的・多面的に見取る評価の工夫を促進する。
- ・ 数学科と英語科における習熟度別指導や少人数指導を有効に活用し、生徒一人一人の理解度を深め個に応じた指導を充実させる。
- ・ 学力調査（国・都・区）や生徒による授業アンケートの結果を通して、授業改善推進プランを作成するとともに、指導方法の改善を図る。
- ・ 読書活動を推進し、生徒の言語能力、感性、表現力、創造力の充実を図る。
- ・ 学校行事および部活動を通して、生徒が主体的に関わり充実感を向上させるとともに達成感を味わわせ、自己有用感を向上させる。
- ・ 進路指導および総合的な学習の時間を通して、自己実現の意欲を向上させるとともに社会における自己の役割や生き方・働き方等を選択できる能力や態度を育成する。
- ・ 生徒会活動を通して、「あいうえお」の学校づくりを活発化し、生徒に社会生活の基本となる価値観や礼儀を身に付けさせる。
- ・ 体力向上努力月間を通して基礎体力の向上を推進し、体育の授業や部活動を充実させ、心身ともに健康な生徒を育成する。
- ・ 給食や家庭科等における指導を通して食育を推進し、正しい食習慣を身に付けさせ、心身の健康の保持増進を図る。
- ・ オリンピック・パラリンピック教育を通して、日本人としての自覚と誇りをもち、他国を尊重し、国際社会の発展や環境保全に貢献し、未来を開く主体性のある生徒を育成する。
- ・ 学校評議員・保護者による学校評価や地域の教育力を活かし、地域から信頼され開かれた学校づくりをする。